

和地ひとみレポート No.290

東大和市議会平成30年第3回定例会 一般質問 “東大和市 市制50周年記念事業”
50周年記念事業は目標実現のための意義あるものに



■第3回市議会定例会 一般質問

…9月4日～9月25日を会期とした平成30年第3回市議会定例会で、私は以下のテーマについて一般質問で取り上げました。

■東大和市市制50周年記念事業

- ①過去の市制周年記念事業の実施状況について
- ②予定している市制50周年記念事業について
⇒実施決定の経緯、実施の目的と期待する効果、実施にあたっての課題と対応策について

■市の子ども子育て施策について

「子ども子育て応援宣言(憲章)」のような市の子ども子育て施策のビジョンの明示について
⇒他自治体の状況や見込まれる効果、そして、今後の方向性について

■持続可能な自治体経営について

現在の課題や取組みや今後の方向性について

■市の市制施行周年事業

…1つ目のテーマ「東大和市市制50周年記念事業」については、今年の4月に『東大和市市制50周年記念事業実施方針』が発表されたことを受け、4月15日付のこのレポートでも取り上げました。東大和市は1970年(昭和45年)に北多摩郡大和町から東大和市へと市制を施行しました。村が町に、町が市になると“格上げ”した印象を受けます。実際、町よりも市の方が与えられる権限が拡大する⇒多くのことを自治体で決められるようになるので、自治という点では確かに格は上と言えます。しかし、町が市になる条件は地方自治法で定められているもので、人口など一定の要件が整い、都道府県で認められたうえで、知事が総務大臣に届け出することで実現します。

…“自治の発展”という点では、市制施行を祝うことも理解できますが、そのお祝いの事業内容が行政主体で市民が置き去りになっていたり、目的が曖昧なまま費用対効果の検証もされないのでは、形ばかりのものになってしまうと思います。前述の『東大和市市制50周年記念事業実施方針』には、2020年に迎える市制50周年記念事業の基本的な方針や目的、実施することが想定される事業などの概要などが書かれていますが、それを読んだ率直な感想は「意義のあるものになるのだろうか?」というものでした。そこで、様々なことが決定してしまう前のこのタイミングで、市制50周年記念事業に対する市の考え方などを確認したく、今回は、このテーマを取上げました。

■過去の周年事業は?

…最初の市長答弁では、市制施行以来、東大和市は10周年、20周年、30周年、40周年と10年ごとに記念事業を実施していることが明らかにされました。そこで、その内容や目的について確認したところ「各周年事業ともに、節目の年を迎えるにあたり、その節目の年までの市を振り返り、記念となるような事業を行うことを目的としている。」との答弁があり、また、各周年事業で実施した主な事業については、以下の答弁がありました。

【市制10周年記念】

「市の10年の歩みを集録した冊子の発刊」、「市の10年の歩みをパネル写真にした展示」、「東大和市市民憲章の制定」

【市制20周年記念】

「ふれあいイベント20」、「記念誌の発行」、「NHKとのイベント連携」、「夏季巡回ラジオ体操の実施」、「東大和市高齢者憲章の制定」、「東大和市平和都市宣言及び東大和市交通安全都市宣言の宣言」

【市制30周年記念】

「記念式典」、「多摩都市モラル記念乗車券の発行」、「既存事業で市制30周年記念事業の冠付けを行う事業」及び「男女共同参画都市宣言の宣言」

【市制40周年記念】

「記念式典」及び「既存事業で市制40周年記念事業の冠付けを行う事業」

…各周年事業にかかった費用についても確認しましたが、すべてそれぞれの事業別の予算だったということで、周年事業にかかった費用全体=通常の事業のほかに周年事業だから実施したものにくらかけたのかという合計金額については確認できないとの答弁でした。

…また、各周年事業の振り返りを行い、次の周年事業に活かすといったことは行っているのかという問いに対しては、明確な答弁がなされなかったため、おそらく、振り返りなどはしていないのではないかと思います。ただし直近の40周年記念事業については「記念事業の既存事業に記念事業の冠づけを行った事業が主であったため、記念事業全体としての目標は設定してなかった」とのこと。また、「市を中心として行った事業だったため、市制50周年については、より多くの市民、企業、団体、市等の関係者の力を借りながら、記念事業を展開することで、シビックプライド(=市に対する市民の誇り)の醸成を図るとともに、市全体で市制50周年を祝うことができるようにしたい。」との答弁がありました (裏面に続く)

■50周年記念の予算規模と内容は

…『東大和市市制50周年記念事業実施方針』には「事業構成」として“連携事業”と“既存事業で冠付けをして実施する事業”と“特別事業”という3つのカテゴリーが示されています。それぞれのイメージについて確認したところ、以下の答弁がありました。

◇連携事業のイメージ

地域や市民団体、市と協定を締結している企業等が市制50周年記念事業の趣旨に賛同した場合に、連携して行う事業を想定。(例)包括連携協定を締結しているセブン&アイ、郵便局、関東学院大学などの企業や大学、そして地域や市民団体等の方と連携した事業など。

◇既存事業で冠付けをする事業のイメージ

市民、企業、団体、市等の関係者などが自主的に企画し、実施する既存の事業で、記念事業の趣旨に合うものに冠の使用許可やその事業に対する広報など、市が支援等を行うことを想定。(例)商店街のイベント、自治会等のイベント、地域の祭り等の伝統行事など。

◇特別事業のイメージ

市が市民の皆様の記念になるような事業をその年限りで行うものを想定。(例)テレビ、ラジオ等のメディアの誘致など。

…また、市制50周年を契機に取り組む事業の具体的なイメージについては「市制50周年を契機に引き続き市が行っていく事業を想定している。例えば憲章や宣言などを想定している。」との答弁でした。

…過去の周年記念事業については、その年に特別にかけた費用については不明との答弁でしたが、現在、市は50周年記念事業の内容を検討しているとのことですが、その予算規模について確認したところ「現在、予算も含めて調査中のため、予算規模についても未定。」との答弁でした。予算によって、出来ることは変わってくる(10万円の予算の企画と100万円の予算の企画では検討する内容が変わってくる)と思いますが、予算規模も未定のまま企画するという事は現実的でないと思いました。

■ブランドプロモーションとの関連

…今、東大和市の将来に向けての大きな課題は、人口減少をいかに食い止めるかです。もっと言うならば、担税能力のある現役世代、子育て世代の人に東大和市に住んでいただき、住み続けてもらうということ。そのために、東大和市は“ブランドプロモーション”という取り組みをしています。この取り組みは、現在、東大和市に住んでいる市民が住み続けたいと思ひ、東大和市に住んでいない人が東大和市に住みたいと思ってもらうというもの。市制50周年の目標について市はシビックプライドの醸成を図ることを挙げていますが、市民が東大和市に愛着を持ち、口コミなどで内外に市の良さを伝えてもらえるようにならなければ、見せかけだけのPRとなってしまふと市も考えているようです。そうであるならば、この50周年記念事業は、この課題解決の一つの方策と捉え、この先の50年の発展に寄与するようなものとするという考え方も出来ると思ひます。

…このような考え方について市はどのように捉えているのかを確認したところ「市制50周年記念事業におけるブランドプロモーションとして内外に発信する一番の課題は、まず市内でシビックプライドを醸成することだ。シビックプライドを醸成する目的は、市民が地域に誇りや愛着を持ち、今後も市に住み続けたいと思ひていただけることで、転出の抑制につなげるものだ。市外に向けての課題は、認知度の向上だ。東大和市を知らなければ、住む所の選択肢に上がらないので、子育てしやすく、住みやすいまちのイメージを認知してもらふ機会を増やしたい。市のブランドプロモーションは、行政だけが推進しても広がらないものだ。市民や関係団体等と連携し、ともに市制50周年を祝い、ふるさと東大和への誇りや愛着心を深めていただき、それぞれの強みを生かして市制50周年記念の各事業で認知度の向上を図るため、市の魅力、特徴等を皆様とともに情報発信していきたい。」との答弁でした。

■高いハードルをどう越えるか

…平成23年に市制10周年記念事業を実施された西東京市では、ホームページなどで事業内容や方針について市民からの意見を募っており、その結果、4割の回答者から記念事業全体に対する自由意見が寄せられたとのこと。特に実施方法としては、お金をかけないでやってほしいという御意見が非常に多く、そのほかには「市民参加、市民が主役になるような」という意見が多かったとのこと。このことを受け、東大和市では市民の意見を募るといふことは行わないのか確認したところ、記念事業全体に関し、市民の意見を聞くかどうかは現在未定とのことでした。

…東大和市が市制50周年を迎える2020年は東京オリンピック・パラリンピック開催の年。世の中は、オリ・パラムード一色になっていると思ひます。さらに、この2020年は、福生市、狛江市、清瀬市、東久留米市、武蔵村山市といった近隣市も市制50周年を迎えます。おそらく、これらの市でも、同じような記念式典を開催することが予想できます。

…このような状況で、多くの市民が50周年を意識し、シビックプライドを高める事業を開催するということには、とても高いハードルがあると思ひます。市民の意見を聞かずに財政難の状況の中、費用をかけてお決まりの式典をすることが本当に有効か。私は、市制50周年を祝うことを否定はしませんが、前例踏襲では市が目標としていることは実現しないと思ひます。多くの近隣市が式典などをするという中、東大和市は「費用をかけてお決まりの式典はしない」という選択肢もあるのではないかと思ひます。市民の声を確認しなければわかりませんが、例えば学校のトイレの洋式化など財源不足で実現していない課題を「50周年記念事業」とするなど、市民が実感できる事業に財源を充当するという方法もあると思ひます。このような決断を広くアナウンスすることで「先見性のある市」「市の将来を考え、“実(じつ)”を取る市」という評価も得られ、知名度もあがるかもしれません。

…市には、50周年記念として取り組むものは、ぜひ、意義あるものにしてほしいと要望しました。



東大和市 市議会議員
和地 ひとみ

市政、議会について「自然体」「ざっくばらん」にレポート。駅前配布するレポートは毎回、最新号です。
「私たちの身近にある市政、市議会。伝えることがスタートだと思います。」

■ 連絡先 和地 ひとみ事務所 HP : <http://www.wachi1103.jp>
✉ wachi_hitomi@cocoa.ocn.ne.jp 【電話・FAX】 042-516-8546
〒207-0005 東大和市高木3-274-2-102